

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4390102087		
法人名	社会福祉法人 愛誠会		
事業所名	グループホーム八景水谷		
所在地	熊本市北区八景水谷1丁目5番1号		
自己評価作成日	平成30年8月10日	評価結果市町村受理日	平成30年10月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 NPOまい		
所在地	熊本市中央区草葉町1-13-205		
訪問調査日	平成30年9月27日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<ul style="list-style-type: none"> <li>・交通アクセスのしやすい反面、リスクの高い立地条件となっているため、いかに過ごしやすい環境を提供できるか工夫をしています。玄関は安全対策として顔認証を導入し、防犯も含め安全面に配慮しています。</li> <li>・利用者ご本人が培ってきた、今までの生活スタイルに合わせたケアを提供します。</li> <li>・健康面については、入院・治療の必要性が発生しても入院を出来る限りせず、事業所内での適切な医療を受けられるよう、医療との連携を密に行い、ご本人の精神的負担や認知症の進行防ぎ取り組みを実施します。</li> </ul>
---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>熊本市中心からも車で10数分、利便性の高い立地です。菊池電車の線路沿いあり、時折電車が通る音が聞こえ、生活に彩りを添えています。近隣に八景水谷公園もあり、自然にも恵まれています。開設1年目の新しいグループホーム、経験豊かな管理者のもと体制作りの努力が行われています。法人内他事業所から食事の提供や清掃専門スタッフの雇用など、利用者へのケアを重視する体制がとられています。</p> <p>運営推進会議での地域代表の発言も積極的で、地域の介護の拠点としての期待の大きさが伺われます。</p>
--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月1回ある検討部会で組織全体の基本理念の唱和を行い実践している。	オープン前研修時にスタッフ全員で考え作成した事業所理念です。月1回の事業所の会議に理念について確認を行っています。	スタッフ全員で作り上げた理念を、具体的に日々のケアにどのように反映していくかを考えることを、職員教育の一環として取り組んでいかれるとよいですね。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との交流は少なく認知度も低い為、清水まちづくりセンターの清水公民館等、外部との情報交換を行い働きかけている。また、地域行事への参加も心掛けている。	事業所からの働きかけの結果、地域からの母の日のフラダンスなどのイベントボランティア、2ヶ月に1度の陶芸教室、月々に体操教室のボランティアを迎えています。町内自治会に事業所だよりの配布も行っています。	介護サポーターポイント制度受け入れ機関施設の登録を検討されています。運営推進会議を通じて、近隣住民による日常的なボランティア受けを進めていかれることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ささえりあ新地からの依頼で事業所の役割を説明している。電話での相談支援を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	道路に面しており、安全対策に対しての意見を頂き事業所として検討し対策を立てた。	開設直後「グループホームの特徴や役割を教えてください。」という要望が議事録にあり、地域の関心の高さが伺えます。安全、騒音、車での出入りのしやすさの工夫などに関する意見が出され、看板の増設がされました。	地域の要望もあり、災害時の地域や近隣自衛隊との協力関係を構築するなど、地域の拠点としての事業所の役割を担っていくことが期待されます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	開設時の書面の助言や職員の退職時に取り扱い、生活保護受給者の方が1名おられケースワーカーの方と連携を図っている。	人材の配置はじめ法令遵守など、市に相談をして協力関係作りに努めています。	今後さらに連携が進み、地域の在宅の高齢者の方々の相談があるなど、頼られる事業所になることが望まれます。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等については、開設前に勉強会を開き事前勉強を行いユニット会議にて明確にし情報の共有を図っている。	事業所内研修のほか、夜間徘徊防止には睡眠導入剤に頼らない努力がされています。	法人本部の主導により、IT活用(見守りセンサー導入など)の検討が始まっています。ITに任せきりにならないような職員教育の準備がされることを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待に関しては開設前から勉強会を開き常に注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関しては、制度の活用など必要なケースが発生した場合を視野に入れ安心サポートの担当の方と連携している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明責任は果たしている。また改定の際は、書面で説明を行っている。遠方の方は郵送を行い電話で説明を行い理解を得た上で同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	地域運営推進会議に参加をして頂き直接意見を言うて頂くようにしている。	意見箱が玄関にさり気なく設置されています。運営推進会議への家族参加を促しています。家族来訪時には担当、またはリーダーが声をかけを心掛けています。年1回の家族会を2回へ増やしたいと考えられています。	意見箱は存在をわかりやすくしつつ、活用されやすくなる工夫が期待されま。季節イベントを利用して家族会が行われるとよいですね。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の検討部会などを利用し意見交換を行っている。	月1回ずつ、ユニット会議、事業所の全体会議が開かれています。業務日誌の様式の改善に関する意見により、次年度には変更することが決まりました。また、個人目標の設定と評価も実施されています。	意見や提案のより積極的な表出のために、各スタッフの事業所内での役割を明確する委員会活動をより充実されてはいかがでしょうか。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況に関しては、希望休を取りやすいように配慮している。子育て支援などにも配慮し、働きやすい環境を整えている。やりがいなどは年度の事業計画の際、各自の目標を把握し、やりがいにつなげている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実務者研修や法人内の講義への参加を推奨し、勉強の機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設サービス会議や施設内研修への参加により、事業所ごとに意見を反映している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に生活されている場所に伺い、どのように過ごされているか、事業所や病院などと情報交換を行い本人の安心感を確保できるよう、入居された後も心配されないよう配慮を行った。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前より相談を受け事前の情報交換を行った。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスについては、遠方の家族も多く帰省の際に意見交換を行うなど、その時支援内容などを把握した。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	事業計画の立案などに当たっては、利用者の意見を聞き、計画書に反映。その内容なども一方的にならないよう皆様の意見を聞いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会は制限せず、感染症の時期を除き自由に面会をして頂いている。季節の変わり目などは衣服の入れ替えや寝具類などの準備もお願いしている。		
20	(8)	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	事業所の近くに住んでおられた方は、公民館や八景水谷公園などに行く機会を設けている。パーマも行きつけに行かれる等配慮している。	読書好きな利用者には図書館へ出かけるほか、2ヶ月に1度は馴染みの美容室へ行くなどの支援が行われています。	敷地内を有効利用して園芸を楽しむ、果樹を植える計画があります。事業所自体が新たな馴染みの場所と変革されることが期待されます。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	馴染みの関係は職員だけでなく一緒に生活を共にする利用者同士の支えがあるような気の合った方同士の座る場所等を工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も病院等との情報交換を行ったり相談支援が必要な場合は、フォローを行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントやご本人の会話の中や家族からの聞き取りによりニーズを把握に努めている。	家族からの聞き取りや退院時の病院からの情報のほか、ニーズなどわかりにくい場合は必要に応じて自宅への訪問を行い確認、把握に努めています。	利用者一人ひとりの楽しみや生き甲斐をより掘り下げて把握できることの必要性を実感されています。事業所全体一人ひとりの聴く、受け取る力の向上が望まれます。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報や生活歴、暮らし方も拾い上げ生活の中に落とし込めるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居された1ヶ月から3ヶ月頃までは、本人の個性が見えずらく、状況把握も薄くなっていたが徐々にそ行き顔でなく素の部分が把握できるようになった。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各ユニット毎の介護計画であるが、表面的なニーズが多く、深く掘り下げる機会が少なかった。それに伴いプランが薄くなっている。	アセスメントから計画作成までの一連の流れは整っています。作成された介護計画の意義や内容の周知徹底が課題として捉えられています。	計画に沿って実行されたケアを職員の皆さんで確認していかれることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月のユニット会議や検討部会での情報交換により実践内容やプラン内容を検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のサービスに関しての要望が多様化しているが、現時点では柔軟な支援に繋がっていない状況。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加や馴染みの美容室などの利用を行っている。その他にも熊日新聞や明治牛乳等の配達も活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医の継続や訪問診療、自分に合った病院の選択を自由にして頂いている。訪問看護による支援もあり、医療面の充実を図っている。	かかりつけ医にはご家族付き添いのもと受診、付き添いが難しいケースには訪問医にお願いするなど柔軟な対応を努めています。できる限り事業所での生活を維持できるよう医療や看護との連携を図っています。	利用者の高齢化、重度化に向けての訪問診療や看護との更なる連携の充実が望まれます。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ケース記録は看護師も一緒に緑で記入。看護職員や介護職員も同じ申し送りノートにて情報交換を行っている。必要な受診などはかかりつけ医へ連絡し適切な医療を提供している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力体制を密に取りながら入退院時のサービス担当者会議などにより病院関係者と関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期については文面化し入居の際、家族の意向を確認している。	指針の整備はされ、家族の意向を確認しています。開設間もなく、現在は看取りはありません。病院よりホームでの生活を最後まで希望されるご家族もいらっしゃるようです。	今後、要望に応じ看取りができる体制作りと職員教育などの準備が期待されます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	開設前に看護師による緊急時の指導や急変時の対応などはユニット会議や検討部会で話し合いを行う。対応の仕方などは訪問看護からの直接の指導もあり実践的に行った…		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策に関しては、担当を決め消防訓練を自主訓練を2ヶ月に一回、総合的に年1回としている。	今年度は事業所内火災訓練を1回、消防署、消防関連業者との合同訓練を1回実施しました。検討会を行い、水害に備え土嚢を準備しました。	次年度は消防だけでなく、その他の災害訓練も実施の予定です。避難の手順や地域との協力体制など周知されることが期待されます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけなどのコミュニケーションの取り方についてもユニット会議や検討部会で問題がある場合は検討している。	トイレや入浴なども同性介助に努められています。	ケアの重度化に伴い、事業所の体制作りや職員教育が望まれます。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	担当者を決めニーズに合わせた対応が出来るよう各委員会で検討しユニット会議や検討部会で再度問題提起を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	排泄も個別にて対応し食事時間も本人の希望に合わせて対応している。入浴に関しても希望に合わせた対応を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧道具も揃え、お出かけの際はお化粧品を出かけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は朝食のみ事業所で準備している。好みや食事形態なども工夫しその方に合った内容を提供している。能力的に手伝いを希望され方に合わせた後片付けをお願いしている。	朝食は希望によりパン食も提供されています。法人内他事業所から運ばれた昼食のおかずを利用者がユニットへ運ぶ姿が見受けられました。毎日書き換えられるお品書きを楽しみにされています。	計画的に月1回程度おやつ作りを事業所でしたいと考えられています。体制が整い、利用者さんの楽しみにつながるとよいですね。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士と連携し、その方に合わせた食事を提供している。食事・水分摂取量は日計表を活用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの励行を行い、定期的訪問歯科を導入し適切な治療及び助言を頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄に関しては、その方の状態に合わせたケアを行っている。基本的にオムツ使用は控え、日中はトイレやPトイレを使用して頂くように配慮している。	トイレ誘導を基本とし、おむつに頼らないケアに努めています。頻繁に訴えられる方には、ポータブルトイレを準備し、その方の状態や時間帯に合わせて、布の下着したり、パッドを使用するなどしています。	今後も利用者さん個別に対応したトイレ誘導による支援を継続されることを期待します。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の把握により好みを把握し個別の飲み物を準備するなど工夫を行っている。また就寝前の水分補給も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の要望に合わせ対応している。同性介助を希望されるため、その配慮も行っている。	冬は最低でも週2回、その他は3回の入浴を支援、柚子湯などの季節湯も行われています。要望によっては夜間の入浴にも応じています。好みのシャンプーを使用される方もいらっしゃいます。	週3回以上の入浴と保湿対策を目標にされています。脱衣所に入浴を楽しむ場所としての工夫がなされること期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に合わせた生活習慣を大切に、自分の馴染みの枕や布団や毛布を準備してもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師や准看護師の管理により4重チェックを実施している。病状変化や内服が変わった際には記録や各ユニットにある申し送りノートを活用している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別に合わせた嗜好品やレクリエーション、役割を持って頂き気分転換を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	図書館や八景水谷公園等外出を行っているが、一人一人に合わせた外出は行っていない。	開設後5ヶ月、3月の八景水谷公園でのお花見の行事外出や家族との外出はありますが、季節的な要件や立地条件もあり、散歩や買い物など事業所としての日常的な外出の機会は難しいようです。	ドライブやご家族との外出など、各利用者月1回程度の支援できるよう検討されてはいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現時点ではお金の管理は預かり金にて対応しており、個人で持たせることはしていない。また家族の希望もあり本人に持たせることでトラブルになる可能性もあり希望されない家族もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を活用したり、メールなどで支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	衛生面や安全面に配慮し、照明の調整や空調、室内温度などにも配慮している。	動線を優先したレイアウトとなっています。ユニット別に利用者さんの症状に合わせてテーブルの配置や壁面の装飾して、共用部分でありながら一人で安心して過ごせる工夫も見られました。	利用者さんの状況も変化します。手すりは有効となるように、壁面装飾のしかたも計画的に工夫されてはいかがでしょうか。時代に合わせた、より居心地のよいリビングの空間作りを事業所全体で検討されることを期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂と居間を分けており気の合う方同士で過ごして頂くよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を持ち込んで頂き、本人が安心して過ごして頂けるようにしている。	安全面を最優先に、ご本人の動きに合わせてレイアウトを心掛けています。利用者によっては、かつてのご家族の写真を飾ったり、寝具などの馴染んだものを持ち込みされています。	新しい馴染みの居住空間となるよう利用者さん毎に合わせた好み、生き甲斐や楽しみにつながるような工夫を、職員ともに進めていかれるとよいですね。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーであり、廊下の長さも確保されており自主訓練として散歩や歩行訓練等を行っている。家事支援として、掃除や洗濯干し、洗濯たたみ等を行い、今まで培った日々の暮らしの中の雰囲気に触れて頂いている。		